

ヤーコンの栽培

○ヤーコンとは

ヤーコンは、中南米のアンデス高地原産のキク科の植物で、草丈は1〜2.5メートルにも達し、主に地下にできるイモ（塊根）や塊茎を食用に利用します。イモの食感ナシのよう、様々な野菜の中でもフラクトオリゴ糖の含有量が最も多く、食物繊維やミネラルも豊富に含まれることから、味と機能を兼ね備えた健康根菜として注目されています。

現在ではイモや苗も市販されており、テレビ等でも取り上げられるなど、身近な野菜になりました。つづありです。

○品種

サラダオトメ
：初めて日本

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
暖地 (関東以西)	←定植	←	←定植				←	←収穫

で登録された品種。皮をむいたときの外觀が優れている。

アンデスの雪

：イモの肉色が白く、長期貯蔵適性が高い。

サラダオカメ：イモの肉色はオレンジ色で、表面に凹凸が多く見た目はよくないが食味は優れる。他品種よりフラクトオリゴ糖含有量が高く、甘みが強い。

○栽培

(1) 特性等

土の中にサツマイモとよく似たイモをつけます。1アール当たり約15株分の種株が必要です。病害虫はほとんど発生しません。

(2) 土づくり、種株の準備

土質は畑土が向いています。粘土質土壌の場合、有機質を多く施し排水性をよくしてやります。肥料は、堆肥など緩効性の有機質肥料が向きますが、化学肥料を使用する場合は元肥として1アールあたり窒素1キ、リン酸2キ、カリ



2キを基本として施用します。追肥は不要です。肥料が多すぎると、地上部が徒長し、収量が低下します。できるだけ堆肥を用いて土壌中の肥料分が多くならないように注意します。土壌pHは中性付近になるよう苦土石灰を施します。

② 植え付け種株の芽をいためないように、ていねいに株分けします。

(3) 定植

霜が降りなくなったら定植時期です。畝幅100センチ、株間50センチくらいで植え付けます。畝の高さは30センチで、水はけの悪い畑では40センチ程の高畝にします。

苗を植える場合は、ポットが入るくらいの穴をあけて、苗をポットから取り出し、茎



が折れないように植えます。繁殖芽（種株を切り分けたもの）を直接植え付ける場合は、芽の大ききの3倍の深さに植えます。

(4) 初期管理

ヤーコンは栽培しやすい植物ですが、定植時期から夏までの管理が最も重要となります。5月は地上部・根ともに生長が緩やかで、この時期に乾燥しすぎると茎葉の生育やイモの肥大が悪くなり、収量が大きく減少します。この時期は葉が旺盛に繁茂するよう、状態を見ながら十分な水やりと除草作業をします。また、ヤーコンは梅雨時期が最も生長します。最近では異常気象で梅雨時期でも雨が降らないことがあるため、梅雨時期でも水やりに注意してください。

(5) 収穫等

気温が下がり、地上部が枯れ始めたころが収穫適期です。初めに茎を刈り、畝の両側の土を崩してから掘ると収穫が楽にできます。イモの表皮は傷つきやすいため、ていねいに掘り取ります。収穫後30〜50日間は追熟させ、アクを取ってから食べます。収量

は1株当たり5〜10個ぐらいが目安です。イモを取り除いた株は、翌年の種株として利用できます。

(6) 保存

① 種株の保存

畑に30センチくらいの穴を掘り、コンテナなどの水のたまりにくい箱にわらを詰めて埋め、春まで保存します。家庭内で保存する場合は、種株を乾かした後、余分な茎や根を切り取り、乾燥した土を入れたプラスチック容器などに入れて周囲を土で覆い、家の中の凍らない程度の寒い場所で保存します。

② 食用部の保存

食用部を保存するには、地上部を刈り取り、畝全体にビニールをかけて霜を防ぎ、その上に土を5〜6センチ程覆土します。2ヶ月を超える長期保存は、イモが傷みやすく、イモの味が水っぽくなり臭いも増しますので、注意します。

(7) 食べ方

食感がナシに似てシャキシャキしており、生でサラダに入れることが多いですが、炒め物や揚げ物にも利用できます。



現地情報即座に把握 上島町安心カメラ運用管理システム

平成28年1月24日(日)、消防庁舎2階弓削地域交流センターで上島町安心カメラ運用管理システム説明会と一般公開が行われました。

このシステムにより、町内の各港や公共施設に設置された安心カメラの映像を災害時に確認することで、それぞれの状況を一時的に把握することが可能になります。状況に即応した的確な対応をすることで防災減災効果が期待されます。



平成27年度

上島町消防本部救急研修会

平成28年3月5日(土)13時から、弓削地域交流センター大ホール(上島町消防署2階)において、救急研修会を開催しました。

研修会では、東予地域MCC協議会の検証医師2名を招いて、今年度活動した救急症例の活動検証を行い、今後の救急活動の向上を図りました。



県立中央病院 (三島医療センター) 西山 誠一医師



県立今治病院 川上秀生医師



シミュレーションの様子(ブドウ糖溶液投与)

また、平成28年度から実施が予定されている救急救命士特定行為(心停止前静脈路確保、低血糖傷病者へのブドウ糖溶液投与、ビデオ硬性喉頭鏡の使用)について、シミュレーションを行い、検証医師からの助言を頂き救急活動の質の向上を行いました。

消防本部では、町民の皆さまの安心安全に配慮されるよう定期的に研修会を実施し救急隊員の技術向上を図っています。

火災・救急・救助は
119
(上島町消防署 ☎77-4118)

平成28年2月出動件数

摘要	火災	救急
弓削	0	19
生名	0	5
岩城	0	6
魚島	0	2
合計	0	32
平成28年累計	0	76

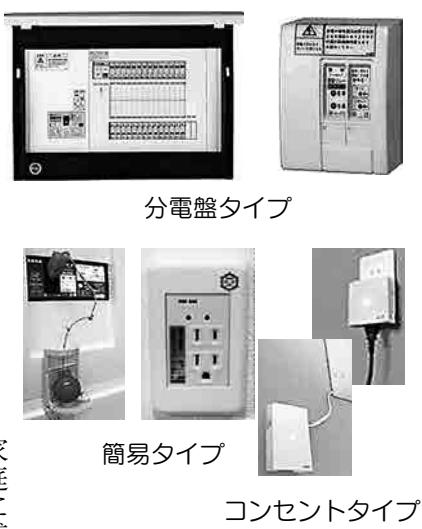
平成28年2月29日現在

寝室に火災警報器

火災による逃げ遅れから命を守るため、住宅用火災警報器を寝室へ設置しましょう。ご不明な点は消防署までご連絡ください。

感震ブレーカーで地震後の出火防止

阪神大震災や東日本大震災では、停電後の電気関係による火災が多く発生しました。地震後に発生する火災のほとんどは、地震により停電になった後、電気が復旧した際に、地震の揺れによって散乱した可燃物に、通電した電気ストーブや白熱灯などが接触して発生しています。



【感震ブレーカーとは?】
設定値以上の震度の地震発生時に自動的に電気の供給を遮断する器具です。